理科・環境教育助成　成果報告書

第３回　　期間：2005 年 11 月～2006 年 10 月

氏　名：　岳野　公人　　所属：　金沢大学

課題名：　森林整備とものづくり学習に関する実践

１．課題の主旨

研究の目的は，森林整備やものづくり学習の参加者が里山における環境保全に関心をもち，その具体的な手段を自分の技術として獲得することである。また森林整備とものづくりに関するリーダーを育成することで，広く地域社会貢献することができる。特に，実際の生活と自然環境を結びつけるものづくりの技術を習得することは，生涯学習としての趣味的なものづくりから，環境保全の観点から社会貢献できるようになることを意味する。このような広い視野で，環境教育の場を提供することで，森林整備及び環境保全を実現することが最終的な目的である。

２．活動状況

助成を受けた 2005 年 11 月から 2006 年の 10 月まで、計画通りの活動を実施することができた。本研究課題の活動は、大きく森林整備・ものづくり学習・リーダー育成であった。

森林整備では、金沢の地域性として雪の多いことがあげられるが、その雪の重みや強い風などで倒された里山の倒木を取り除くことから始めた。また大学周辺は里山に囲まれているため、定期的に里山で活動できるように林道の整備なども実施した。さらに、雑木林の落ち葉から堆肥を生成して、野菜の栽培なども試みた。

ものづくり学習では、里山から切り出した倒木を利用してクラフトづくり教材を開発した。この教材を利用して、一般参加者へは大学において、中学生は附属学校において、クラフト教室を開催した。

リーダー育成については、学生がクラフト教室の指導者となるように活動を支援した。大学・附属学校においてのクラフト教室には３名の学生がのべ 23 名の学習者を相手に指導した。

写真　風雪による倒木

写真　倒木の採取

写真　歩道整備

写真　落葉の堆肥

写真　自然木を利用した題材

写真　クラフト教室の一場面

3．結果

本研究課題の結果、森林整備という環境保全の一環とものづくり学習を一例とした環境教育の実践を試みることができた。森林整備では、定期的な里山保全活動を継続することができた。特に、風雪などの倒木や落葉の再利用を目的として、我々の生活にも利益をもたらす森林整備のモデルを提案することができた。

ものづくり学習においては、環境教育としての機能を果たすことが参加者の感想や意見から明らかとなった。題材の開発では、生活雑貨への提案を意図し、森林整備と日々の生活の関係を示すような題材を提案した。

また、本研究課題の実践を通じて、森林整備やものづくり学習を背景とするリーダー育成の成果が認められた。彼らは、森林整備を通して森林の意味や保全の必要性を理解し、クラフト教室の開催を企画・実施することを通して、環境教育の必要性やその意義を理解することができた。

4．今後の課題と発展

今後の課題は、組織づくりとその運営である。現在は、様々な制約のため自主的に活動することがむずかしい。このような活動は活動そのものの時間的な非効率性のため学校教育にはなじまず、国や企業からの支援なしでは継続することができない。しかし、本研究課題のような環境保全や環境教育の必要性や意義は、誰もが理解していると考えられるため、今後も国や企業の支援を得ながら、本研究課題を継続するつもりである。

また、ボランティアレベルの活動では、継続するための意識が安定せず、その成果もわずかなものである。そのためにも、安定した組織づくりが重要である。例えば、NPO 法人の設立もその展望の一つとして考えられる。

5．発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

投稿中論文：環境教育学会、里山におけるものづくり題材開発と環境教育の実践（2006）

研究課題推進のための、1 年間ご支援いただきありがとうございました。微力ではありましたが、環境保全と環境教育を地域に根ざした活動として実践することができました。また、機会があれば再びご支援いただければ、さらなる成果を生み出すことができると考えています。今後ともよろしくお願いします。